



みみだより

松江ろう学校 支援部

No. R1-5 2020/3/12

早いもので今年度も残りわずかとなりました。今号では、「中国教育オーディオロジー研究協議会 冬の研修会報告」と「補聴器情報」をお伝えします。

中国教育オーディオロジー研究協議会 冬の研修会報告

1月25日(土)に冬の研修会が岡山聾学校で開催され、本校からは事務局を含め4名が参加しました。

講演は、岡山県でクリニックを開業しておられる福島邦博先生による「KIDS*FIRSTにおけるセルフアドボカシー指導—小学生で考えること—」でした。KIDS*FIRSTとは、福島先生の手がけておられる児童発達支援・放課後等デイサービス事業のことで、難聴のある子どもに対する支援のことです。今後の学習や指導に生かせる具体的なお話でした。講演内容についての全てをお伝えすることはできませんが、大切だと感じたところについてお伝えしたいと思います。会員のみなさんには資料が配布されていますので、併せてご覧ください。

○セルフアドボカシーとは…

- ・生活上の障がいや困難のある当事者が、
- ・自分の利益や欲求、意思、権利を自ら主張し、
- ・自分自身、または他者のために権利擁護活動を行うことである。

もう少し具体的に…

- ・自分のために声を上げて
- ・自分に必要なサポートを獲得するために
- ・誰かと交渉する(自分が必要とする同意に至る)

○セルフアドボカシーが必要になるのは通常、高校を卒業してから。しかし高校を卒業したとたんにその力がつくわけではないので、それ以前からずっと準備（セルフアドボカシーのトレーニング）する必要がある。

○小学生で身につけるセルフアドボカシーの基礎

- ・一般的知識（自分の障がい、デバイス、人権や社会）、自己認識（自分の得意と不得意等）、コミュニケーションの能力（アサーティブなコミュニケーション等）、情報収集能力【自力で情報を集める力も育てたい！】

○自己認識を育てるのは、子どもたちが自分のゴールを考えるのに役立つ。どんな助けがあれば何ができるかということをよくわかっていれば、実際に自分の自信につながる。

○聴覚障がいのセルフアドボカシーと発達障がいのセルフアドボカシーとは異なる。

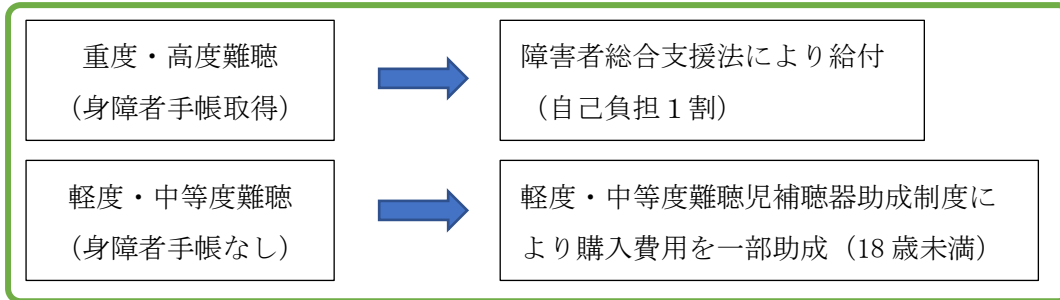
○障がい受容はいつまでたってもできるものではない、障がい認識は“わかればいい”というものではない、障がいを認識した上で、どうするのか、それがセルフアドボカシー。

来年度の中国教育オーディオロジー研究協議会の夏季研修会は、7月30日(木)と31日(金)の二日間、米子コンベンションセンターで開催される予定です。講演や講座の中でセルフアドボカシーや自立活動、手話コミュニケーションに関する内容が企画されているようです。保護者の皆さまにも研修報告などを通して、引き続き情報を提供していきたいと思っております。

補聴器ニュース！

○補聴器購入に関わる助成について（島根県）

島根県での補聴器の購入に際する助成は次のようになっています。



☆フォナック スカイBが

障害者総合支援法と軽度・中等度難聴児補聴器購入費助成制度の対象機種になりました！☆

これまで、子ども向け補聴器としてスカイV、スカイBが販売されており、スカイVが障害者総合支援法および軽度・中等度難聴児補聴器購入費助成制度の対象機種となっていました。スカイVは今後発売中止になる予定です。



フォナック スカイB

製品名	価格（非課税）
スカイ B90-P / SP / UP / RIC (M/P/UP)	片耳 400,000 円
スカイ B70-P / SP / UP / RIC (M/P/UP)	片耳 280,000 円
スカイ B50-P / SP / UP / RIC (M/P/UP)	片耳 200,000 円
スカイ B30-P / SP / UP / RIC (M/P/UP)	

障害者総合支援法、軽度・中等度難聴児補聴器購入費助成制度対応

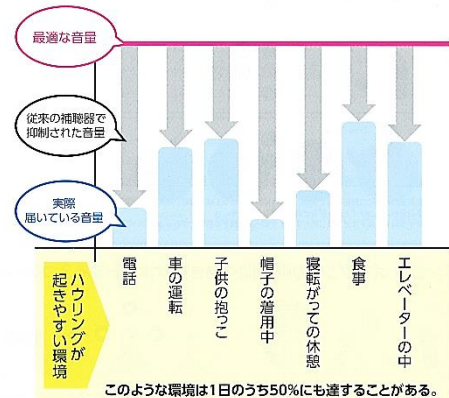
☆新製品 オーティコン オープンプレイ（軽度～高度難聴対応小児用補聴器）

オーティコン エクシードプレイ（高度・重度難聴対応小児用補聴器）について☆

○ハウリングを避けながら最適な音量を保つことができる補聴器です。

従来の補聴器はハウリングが起きた瞬間に音量を自動で抑制していました。この補聴器は、ハウリングを未然に防ぎ、どんな環境でも最適な音量を維持してくれます。

オープンプレイ、エクシードプレイのそれぞれに障害者総合支援法対応機種があります。



イメージ図



スカイB、オープンプレイ・エクシードプレイのカタログがあります。興味のある方は 各学部の支援部員に声をかけてください！